



川東小だより

第4号

令和3年7月15日
新発田市立
川東小学校

夏の日思い出

校長 岡崎 功一

6月28日(土)の川東地区自治連合会主催の二王子岳登山に私も参加させていただきました。川東小学校の子どもたちも10名ほど参加しました。私にとって初めての二王子岳登山でした。大峰山や五頭山は、何回か登った経験がありましたが、最近、運動不足の私にとって登り応えのある登山となりました。疲れも感じましたが、登山道を歩いていく中で、樹齢百年は優に超えている杉の木や緑の葉がまぶしいブナ林や「ヒメサユリ」の花を見ることができました。また、途中何カ所かあった雪溪の上を歩き、ようやく山頂に着きました。二王子岳の豊かな自然を満喫した1日となりました。

さて、子どもたちにとって、待望の夏休みが迫ってきました。コロナ禍であるものから夏休みを迎える子どもたちにとって、わくわく感や解放感がたまらない気持ちであることは、容易に察することができると思います。

ここで小学校時代の夏休みの思い出の1コマを紹介させていただきたいと思います。私の家では、お盆に母の実家に泊りがけでお墓参りにいくことが、恒例の行事であり楽しみでした。母の実家は上越の農家で、まだ茅葺屋根の家でした。(当時でもめずらしかったと思います)まだ祖父母が健在でした。辺りの風景は、川東地区のように田んぼが広がっていました。(今では、宅地造成がされ変わり果てましたが・・・)牛1頭とニワトリを何羽か飼っていました。ニワトリの卵取りの手伝いをしたこともありました。お盆の日になると、伯父伯母たちや従兄弟たちも実家に集まりました。お墓参りをして、夜には一緒に食事をして楽しい団らんのひと時を過ごしました。このお盆の母の実家で過ごした数日間は、井戸で冷やしたスイカや地元でしか売っていないアイス(新発田でいうスギサキのようなアイス)を食べたり、夜は、従兄弟たちと普段できない打ち上げ花火を楽しんだりしました。みんなで海水浴に行ったこともよい思い出です。このような出来事が小学校時代の夏の日思い出として色濃く残っています。

なぜ、これほどまで自分の夏の日思い出として記憶に鮮明に残っているのかと考えたとき、祖父母、伯父伯母、従兄弟たちと一緒に過ごした空間が、楽しいことばかりでなく、安心感があり、落ち着ける場でとても居心地がよかったのだと思います。しかし、今では、家庭の生活スタイルも様変わりをして、このようにしてお盆を過ごす家庭は少なくなりつつあると思います。

もう少しで夏休みとなります。夏休みだからこそできることをしたり、家族団らんの時間を過ごしていただいたりして、子どもたちにとってよい思い出たくさんできる夏休みになることを願っています。また併せて、事故やけがのない夏休みとなることを祈っております。

保護者の皆様におかれましては、1学期の教育活動にご理解とご協力をいただきましたことに深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

